

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由自館		
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	平成22年5月10日	評価結果市町村受理日	平成22年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772500761&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年6月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由自館では、出来るだけホームに引きこもらずに外出頻度を増やすように心がけています。イベントに参加したり、お弁当をつくって出かけたり、年に1度、利用者さまとご家族、職員で温泉旅行に行き、温泉にゆったりと入られた後、毎年恒例になっている宴会を利用者様はとでも楽しみにされています。高齢になるにつれ外出の機会が少なくなりますが、自由自館では出来るだけ外出し、外の空気を吸ったり、季節感を感じたり、人とのふれあいを大切にしていこうと努力しています。地域のイベントにも参加させていただき、地域のお年寄りとの交流も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員が力を合わせ暮らし、地域の方々とも共に支え合うという思いが込められた理念の基、話し合いを重ね意思統一を図りながら理念に沿った支援を心がけています。自治会に加入し、毎月のお茶会への参加、老人会と合同で花見を行う等地域の一員としての交流があります。以前の生活を継続できるように音楽を習いに通ったり、居酒屋に行く等の支援を行っています。また、本人や家族の意向を基に、会議では利用者自身の可能性を考え目標を設定し介護計画を立て、日々の記録は介護計画に沿って内容が記載されており、介護計画が現状に合っているか振り返る機会となっています。重度化していく中でも毎年一泊旅行に行ったり、徐々に外出できなくなった利用者のためにホームのガレージでバーベキューを行う企画をするなど、利用者の楽しみごとの支援に努めているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間の話し合いによりみんなの為にあなたがいる あなたの為にみんながいる というホーム独自の理念をつくり スタッフ間で共有している	法人の理念のもとに職員間で話し合い作られたホームの理念は、利用者と職員が力を合わせ暮らし、地域の方々とも共に支え合うという思いが込められています。話し合いを重ね意思統一を図りなが理念に沿った支援を心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、月に一度、会館である、ふれあいサロンにも参加させていただいている お花見の時には、グループホームにも声をかけていただき合同でお花見をした	自治会に加入し、市の商業祭におでんの屋台を出したり、毎月のお茶会への参加、老人会と合同で花見を行う等地域の一員としての交流があります。また、買い物や散歩の際に挨拶を交わし顔なじみになり、日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	池田市の認知症介護家族の会がありその会に参加する際には介護の方法等の支援方法や介護する側・施設側の意見交換の場があったが 現在は、解散した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を通して意見交換をしたり、地域との関わりのかけはしをしていただいたりしている	運営推進会議は老人会会長や町内会会長、家族、地域福祉委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て2か月に1回開催しています。ホームの現状を報告し、地域との相互協力について検討したり、町会長交代に伴うホームの説明などを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	アドバイスをいただいたり、相談等も行い質の向上に取り組んでいる	池田市のグループホーム管理者の会が2～3か月に1回開催され、市の担当者の出席もあり相談の機会となっています。また、日々に運営上の相談には市役所に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、一人で何度も外に行かれる利用者様がおられ、ご家族の希望もあり、危険防止の為に施錠している	身体拘束の禁止について定期的に研修を行い、職員に周知を図っています。建物の2階にあるホームに上がる階段の入り口に鍵をかけていますが、利用者が外に行きたい時にはできる限り一緒に出かけるよう支援し、少しずつ解錠していきたいと考えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとっていただき契約を行って不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行うようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族とコミュニケーションをはかり、意見、不満などを言っていただく。発言しにくい場合もある為1Fに意見箱も設置している 月に一度、派遣相談員の訪問もある	意見箱の設置や家族の来訪時に直接意見や要望を聞く機会としています。毎月手紙を書き、利用者の様子を伝え、介護計画の更新の際に改めて意見を聞いています。家族の高齢化もあり意見は少ない状況です。利用者の意見は日頃のコミュニケーションや介護相談員の受け入れにより聞く機会となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や、提案を吸いあげ業務に反映させるように取り組んでいる	月に1回のミーティングでは、活発な話し合いがなされ職員の意思統一を図り、業務改善等に取り組んでいます。自己評価を行った後面談を行うことで、職員が個人的な意見や意思を言う機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激しあい向上心を持って働ける環境になるように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけではなく 色々なスタッフに研修を受ける機会をつくれるようにしていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3カ月毎に池田市のグループホームの管理者・計画作成担当者・リーダーが集まる機会があり意見交換や困難事例等の検討会など行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間をつくり本人が安心出来るように信頼関係が築けるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望にこたえられるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ・家族・本人と話し合いながら、本人にとって何が一番必要なかを話し合う機会をもうけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者と言う関係ではあるが家族同様お互いが支えあえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフも家族同様のよう本人を支えていく関係を築きながら、ご家族にも協力していただく		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から続けておられる習い事や友人とのお付き合いもできる限り支援している	以前住んでいたマンションに行ったり、音楽を習いに通うなど、個々に応じて馴染みの場所や人との繋がりが続けられるよう支援しています。また、友人の訪問がある方もおられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行もあり 利用者様同士が関わり合いを持てる機会が少ない		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族に連絡をとったり ご本人に会いに行ったりと関係が続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向に沿えるように努力しているが出来ていない事もある	独自のアセスメント様式を活用し、利用者の心身の状況を把握し、本人の言葉や表情、行動から思いや意向の把握に努めています。毎月行われる会議で職員間で意見を出し合い検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から出来るだけ情報収集を行いスタッフ間でも共有できるようにつとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせて一日を過ごしていただけるように努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・スタッフ間での話し合いのもと目標をもち ケア出来るように努めている	本人や家族の意向を基に、会議では利用者自身の可能性を考え目標を設定し、介護計画を立てています。会議には法人内の役職に就いている職員の出席もあり、客観的な意見やアイデアを出されることもあります。毎月の会議でモニタリングを行ったり、日々の記録に介護計画に沿って内容が記載されており、介護計画が現状に合っているか振り返る機会となっています。変化がなくとも6カ月ごとに見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を活かしながら情報を共有し業務にあたり工夫、出来たこと、出来なかった事が記録されている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等以外に事業所が送迎に関わらない外出に関しては、系列の介護タクシーに依頼する事もでき安全、安心に外出が出来るように支援している		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カルチャースクールのカリキュラムを配布し希望があれば意向に沿うように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療の訪問診療があるが 希望がある場合は、以前からかかっておられる医師にみていただく事も出来るように支援している	入居時に以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明しかかりつけ医を決めています。ホームの協力医は2週間に1度の往診があり、24時間連絡可能であり、日中であれば随時往診してもらえよう関係が築かれています。整形外科等の専門診療は適宜受診支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応してくれる在宅医療の看護師や医師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ訪問し医師や看護師・ご家族との話し合いを行い 情報交換を行うように努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも話し合いの場をもっている 状態の変化にあつたケアを行うために 状態に応じご家族と連絡を取り合っている	医療処置等への対応などホームでできないことを入居時に説明しています。重度化された利用者へは、家族と医師、ホーム職員が繰り返し話し合いを行い、本人にとって一番良い居場所や支援は何かを考えて対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議等でも緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間の想定訓練はしているが 夜間想定訓練を今後行う予定にしている	年に2回ホーム独自で昼夜を設定し避難訓練を行っています。1回は総合訓練で、後の1回は部分訓練を行っています。運営推進会議で訓練の状況を報告し、今後は地域の方への協力を働きかけを行い合同で行いたいと考えています。	夜間想定での避難訓練では、消防署のアドバイスを得た上で地域との協力体制が築かれていけるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と言うことを意識している	家庭的な雰囲気の中ですが、人生の先輩であることを念頭に置いて対応や言葉かけを行っています。不適切な対応が見られた時には、職員同士が注意し合っています。できることまで支援することでプライドを傷つけないような配慮もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択出来るように声かけには工夫をするよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にしているが スタッフの人数の問題もあり 入浴時間等は限られた時間になる事がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のご希望で毛染めやマニキュアなどできるように支援したり 服装なども相談に来られたら対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・食事作り・片付けをその人の能力に合わせて一緒に行ってもらう	栄養士のアドバイスを得てバランスの良い献立を基に買い物から調理、準備等を利用者と共に行っています。台所とダイニングが近く、ダイニングに座りながら調理にも参加できています。職員も同じ食卓に着き楽しい食事の時間となっています。個別の外食を支援したり、弁当を持って出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量が分かるように記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う 自分で出来ない利用者様はスタッフが介助している		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンが分かるように排泄チェック表をつけトイレ誘導などの時間を工夫している	個々の利用者の排泄のパターンや習慣を把握し、日中はできる限りトイレで排泄できるように支援しています。夜間のおむつ使用をできるだけ避け、ポータブルトイレを活用し支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心がけながら便秘に注意している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの人数の都合で時間帯はある程度決まっている	毎日、昼食後から夕方に入浴できるように準備し、利用者の希望に合わせて入浴できるように支援しています。毎日入浴される方がいたり、拒否のみられる方には声のかけ方を工夫して入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調に合わせてお昼寝等していただいて過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の一覧表がいつでも見れるようになっており 薬の変更や追加等があった場合には申し送りの徹底をおこなっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人にあった趣味・好みを理解して、楽しみながら過ごせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習い事や、希望時お買い物や外食、喫茶店へ出かけたりと外出の支援に努めている	日々の散歩や買い物に出かけたり、季節に応じた花見などの外出支援をしています。重度化していく中でも毎年一泊旅行に行き、利用者の楽しみとなっています。個別には居酒屋や喫茶店などの外食の支援をしています。徐々に外出できなくなった利用者のためにもホームのガレージでバーベキューを行うなどを企画しています。	

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのお小遣いをご自分で管理されお買い物の時に自分でお支払いされる方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、いつでもTELをかけたり、手紙を出したりする事を支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないように 配置などは大幅に変えたりせず 温度管理にも配慮している	家庭的な雰囲気の共有空間では、個々の居心地良く過ごせる好きな場所作りを大切にしています。趣味のピアノや寛げるソファなどを置いています。玄関にはあじさいやトマトなどのプランターを置いたり食卓には花を飾り季節を感じることにできるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり居室以外では独りになれるスペースがないが ソファの座る位置など お気に入りの場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の家具や好みの物をお部屋に置いて生活してもらうように配慮している	入居時に家族と相談し、テレビやタンス、仏壇などを置いています。利用者の作品や家族の思い出の品を飾り、居心地の良い居室となるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いすぎないようにスタッフ同士声をかけあいながら 本人の力を引き出すように努力している		